

山と私

西川 浩一路

野口氏のエッセイにある通り、その富士登山報告に触発され自分も一度は日本最高峰に足を置いてみたいと、旅行社クラブツーリズムの“富士山に登り隊”に参加申し込み何とか念願を叶えました。

思い返せば既に10年が経過し当時既に78歳でしたが、現在の米寿超え88歳から見るとまだまだ元気でありました。

一緒に登った歩こう会仲間3人の内1人は小生より4歳若い、上場会社第一実業（株）

（機械系商社）の社長、会長を勤めた仁でしたが、やらずもがなの胆管結石の手術を行い失敗されて医療事故で亡くなりました。（この歩こう会は2002.12.30.を第1回としてコロナ禍による中断を経て2023.3.30.の324回をもって終了しました。“富士山に登り隊”が行った5回の訓練登山5回と本登1回計6回を含む。）

2泊3日の富士登山は幸い天候に恵まれお鉢巡りを含め無事終了しました。最高穂の石標前で亡くなった仁と共に撮ったスナップは第一実業が催した大阪阪急インターナショナルホテルのお別れ会に飾られていました。なお、クラブツーリズムが撮った参加者全員の記念写真は木枠入りで送ってくれたので今も部屋の片隅にあります。

下山後、紅富士という温泉付きホテルで温泉に浸り、夕食後バスで帰阪しましたが、露天温泉から眺めた富士山に格別の印象を覚えた記憶があります。

富士登山と言え、5合目からの登山でしたので、其のうちに麓の吉田神社から5合目までたどり未踏のルートを歩いてみたいと思っていましたが、ついに果たせずに終わりました。

当時も山頂付近は都会のラッシュを感じさせましたが、国内は勿論国外からの登山客が益々増えて混雑とごみ処理が大問題となっているようですが、登山期間が限られているので希望者全員が入山できるというのは早晩無理になるのではないかと予想します。入山料徴取とか予約制になるのではないですか？

自分の最初の高山登山は大学1年生の夏休みに大学の体育科と登山部合同で催行した立山（雄山）登山でした。同級生の熱心な誘いと体育単位の付加につられてなけなしの小遣いをかき集め、懐具合を心配しながら参加しました。

体育科の助手の先生と当時希少な海外登山経験者（マナスル峰登山隊員）の文学部講師の先生が付き添い指導役でした。

藤本さんや、高村さんのような山登り指向は全くなかったもので、まともな登山用具は皆無で、黒田良太郎君が好意で貸してくれたピッケルとアイゼンが唯一の登山用具で、リュックは軍隊払下げまがいで頑丈だが重くて背負い難いもの、肝心の靴は高校時代に通学ではきならした底のつるつるに減ったものでした。今から思うとあんな靴でよく行ったものだとゾットします。無知とは恐ろしいものです、災害に会わず幸運でした。

大阪から夜行列車に乗り翌朝富山駅着、富山電鉄に乗り換え終点の登山口最寄り駅下車、八郎坂経由弥陀ヶ原、室堂、雄山山頂直下の富山大学山小屋に泊まりました。途中弥陀ヶ原中で1泊しました。大半のメンバーは雄山登山の翌日正面に見える剣岳に登頂しましたが、自分は靴のお粗末さに危険を感じ少数の者と山頂小屋に留まりました。今から思うと全く残念なことをしたと悔やんでいます。山登りに関心の無かった身には当時登山靴に対する興味もそれを買う経済的余裕はありませんでした。

苦しい折り返しの多い八郎坂から眺めたに日本一の称名滝の雄大さに目を見張った覚えがあります。只、登山を楽しむ気分と余裕は全くなくて、こんなシンドイことに金と時間を使って無駄したなぐらいの感覚でした。

現在富山電鉄終点からケーブルとバスを乗り継ぎ立山直下の室堂迄簡単に誰でも金さえ払えば行けるのに比べると、富山電鉄の終点も現在より相当手前で終わり。本登山口に至る迄相当の距離を歩いたように思います。登りなれた登山部の連中はそのコースを下駄ばきで歩き、登山口で靴に履き替えていました。

剣岳の厳しいが美しい姿と、帰途弥陀ヶ原の外れの露天温泉（地獄谷温泉？）に浸り数日風呂に入っていなかったなのでその有難みを忘れずに覚えています。

藤本、高村さん両雄の穂高登山行に出てくる上高地には宿泊を含め、数回訪れています。が、残念ながら穂高、槍ヶ岳登山は果たせていません。登山口前の明神橋を渡り折返して

河童橋迄戻った記憶はあります。ゴルフ行の回数を減らして挑戦しておくべきであったと後悔しています。